

能 芸 くら みる 伝統 公演

KAC Performing Arts Program2013 / Traditional Performance
五感で感じる和の文化事業

日 時

2014

program A 3.20^{thu} 能とコンテンポラリーダンスをみくらべる

program B 3.21^{fri} 寄席と色物をみくらべる

program C 3.23^{sun} 舞と踊りをみくらべる

*Aは19時開演、B・Cは15時開演。

会 場

京都芸術センター 講堂 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2

出 演

A.河村晴道(能楽師シテ方観世流) ゲスト:伊藤キム(振付家・ダンサー)、寺田みさこ(振付家・ダンサー)

B.露の都(落語家)、内海英華(寄席囃子三味線/女道楽師)

C.山村若(山村流六世宗家)、若柳吉蔵(若柳流五世家元)

司 会

A.志賀玲子(舞台芸術プロデューサー)

B.C.小林昌廣(情報科学芸術大学院大学教授)

料 金

一般前売券:2,000円/学生前売券:1,500円 当日券:2,500円(一般、学生共) 3公演通し券:5,000円

チケット取扱い

□京都芸術センター | TEL:075-213-1000 | 窓口(10:00-20:00) | ウェブサイト(<http://www.kac.or.jp>)

□チケットぴあ TEL.0570-02-9999(PCODE 433-884) *2014年1月18日より販売開始 *学生前売券、3公演通し券は、京都芸術センター TEL、窓口でのみ受付

program A

能とコンテンポラリーダンスを みくらべる

能の主人公は幽霊であることも多く、すでに完結した物語を舞や謡、音楽をもって演じます。600年かけて研ぎ澄まされてきた最小の動きのなかで、人間の本质や情念を語ります。能とみくらべるのは、舞踏を出自とする伊藤キムさんと、バレエを出自とする寺田みさこさん。別の「踊る」身体をもつふたりが、能の仕舞に挑戦します！

日時：3月20日(木) 19:00開演、18:30開場

出演：シテ：河村晴道、味方團、田茂井廣道、深野貴彦

笛：竹市学 小鼓：吉阪一郎 大鼓：河村大

ゲスト：伊藤キム(振付家・ダンサー)、寺田みさこ(振付家・ダンサー)

司会：志賀玲子(舞台芸術プロデューサー)

演目：舞囃子「松風」ほか

program B

寄席と色物を みくらべる

落語の寄席は、落語以外の演芸を朱で書きます。それらを「色物」と呼びました。「女道楽」は、女性芸人が唄や踊り、軽妙洒落な話術をもって披露する芸能のこと。かつては色物として演じられ大正期に全盛を迎えました。その後、現在の漫才や漫談へとつながっています。いちど途絶えた「女道楽」を復活させた内海英華さん、日本最初の女流噺家である露の都さんとともに、その時代の演芸をみくらべます。

日時：3月21日(金・祝) 15:00開演、14:30開場

出演：露の都(落語家)、内海英華(寄席囃子三味線/女道楽師)

司会：小林昌廣(情報科学芸術大学院大学教授)

program C

舞と踊りを みくらべる

「舞踊」は、明治になってできた新造語で、舞と踊りを合体させた言葉。「舞」は神楽や舞楽にはじまり、能で一つの完成形をみます。その舞の変形としてできたのが、「踊り」です。「舞」は様式をもって身体を集中させ緊張を高めていくのに対して、「踊り」は様式から身体を解放させていきます。能の影響を受けた上方舞と、手振りの多い若柳流の踊りをみくらべます。

日時：3月23日(日) 15:00開演、14:30開場

出演：山村若(山村流六世宗家)、若柳吉蔵(若柳流五世家元)

司会：小林昌廣(情報科学芸術大学院大学教授)

演目：「座敷舞道成寺」より『山尽くし』

「奴道成寺」より『山尽くし』ほか

profile

河村晴道 Harunichi Kawamura

能楽師シテ方観世流。昭和35年、京都市生まれ。父河村晴夫、伯父河村祐二、叔父河村隆司、および13世林妻右衛門に師事。昭和39年、仕舞「老松」にて初舞台。昭和44年、能「狸杵」にて初シテ。今までに「石橋」「狸々乱」「道成寺」「砦」等を抜く。演能のほか、大学での授業、講演を行い、能の普及活動に積極的に関わる。



伊藤キム Kim Itoh

昭和62年、舞踏家・古川あんに師事。平成7年、ダンスカンパニー「伊藤キム・輝く未来」を結成。昭和63年、フランス・パリオ国際振付賞、平成13年、第一回朝日舞台芸術賞 寺山修司賞、平成20年、横浜文化賞奨励賞を受賞。平成17年、バックパックを背負って半年間の世界一周の旅に出る。平成23年、「輝く未来」を解散。近年は、若手ダンサーの育成や中高生向けのワークショップ・振付、おやじが踊って給仕する「おやじカフェ」のプロデュースなども行う。京都造形芸術大学客員教授。



寺田みさこ Misako Terada

昭和62年より石井アカデミー・ド・バレエに所属。平成3年より砂連尾理とダンスユニットを結成。平成14年7月「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2002」にて、『次代を担う振付家賞』『オーディエンス賞』受賞。平成18年以降ソロ活動も開始し、山田せつ子、山下残、白井剛振付作品などに出演。自身の作品としては、平成19年にソロダンス『愛音』や平成25年にグループ作品『アリア』などを発表している。京都造形芸術大学芸術学部舞台芸術学科准教授。



露の都 Miyako Tsuyuno

昭和31年、大阪府堺市生まれ。昭和49年、露の五郎兵衛に入門。日本で第一号の女性落語家となる。男社会といわれる落語界で、女性落語家の草分けとして古典落語一筋に、女性落語家の先頭に立って活躍中。平成17年10月には、女性落語家として史上初の古典落語百選を完遂。平成22年、文化庁芸術祭賞優秀賞受賞。



内海英華 Eika Utsumi

昭和53年、旭堂南陵へ女流講釈として入門。昭和54年、新花月にて初舞台。昭和56年、漫才師内海カッパに師事。昭和57年、故郷原ふみ子(杵屋柳翁)に師事。寄席三味線をはじめ。上方落語界でも数少ない寄席三味線として落語会などで活躍するかわら、大阪で唯一の「女道楽」(三味線漫談)を継承し、活躍している。平成8年、咲くやこの花賞受賞。平成24年、文化庁芸術祭賞大賞受賞。



山村若 Waka Yamamura

山村流六世宗家。平成4年、早逝した母に五世宗家を追贈し、六世宗家山村若を襲名する。初世・二世・友五郎以来、約百年ぶりの男性宗家として女性らしい舞と評され、山村の主流とされている座敷舞(地唄舞)と初世より伝えられる上方歌舞伎舞踊の二つの流れを大切に、伝統の維持継承に力を注ぐ。文楽・宝塚歌劇・歌舞伎の振付・舞踊指導・門下育成に従事する。文化庁芸術祭新人賞・同優秀賞・舞踊批評家協会新人賞・芸術選奨 文部科学大臣新人賞・芸術選奨 文部科学大臣賞・日本舞踊協会 花柳壽徳賞新人賞・大阪文化祭優秀賞・ベストファーザー賞等受賞。



若柳吉蔵 Kichizou Wakayagi

若柳流五世宗家。二代若柳寿童の三男として京都に生まれる。昭和62年、流儀の由緒ある名跡、吉蔵を継ぐ。平成10年、五世宗家を襲名する。寿童の高弟、若柳竜二郎と古金吾に学び、古典や創作舞踊を手がける一方、近年は異流の若手との共演にも挑戦する。京都・宮川町で毎年、「京おどり」の振付、指導も担当している。平成15年、文化庁芸術祭新人賞受賞。平成20年、文化庁芸術祭優秀賞受賞。平成21年、松尾芸能賞 舞踊新人賞受賞。



志賀玲子 Reiko Shiga

(財)地域創造「公共ホール現代ダンス活性化事業」コーディネーター、岩下徹制作。平成17~21年度 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任教授。平成2~19年度 伊丹市立アイホール、平成12~19年度 滋賀県立びわ湖ホール夏のフェスティバル、平成15~17年度 京都造形芸術大学舞台芸術研究センターにおいてコンテンポラリーダンスを中心とした企画をプロデュース。平成20年より能囃子幸流小鼓を曾和尚端師に、平成24年より観世流謡・仕舞を河村晴道師に師事。



小林昌廣 Masahiro Kobayashi

情報科学芸術大学院大学教授。昭和34年、東京生まれ。大阪大学大学院医学研究科博士課程単位所得。医療・哲学・芸術の3点から見た身体論を構築。専門は医療人類学、身体表現研究、表象文化論、古典芸能批評。歌舞伎は3歳の頃から見続けている。古今亭志ん朝と同じ町内会であったのが自慢。主著に『病い論の現在形』『臨床する芸術学』など多数。



現代に受け継がれてきた

伝統芸能。

その姿は時代を経て

少しずつ更新しながら、

今にいたっています。

「伝統芸能みくらべ」公演では、

他の分野と出会いみくらべることで、

その芸の本質である精神性や

構造に迫ります。

五感で感じる和の文化事業とは

「五感で感じる和の文化事業」は、京都だけでなく国内の貴重な伝統文化を発信し、将来に継承する拠点施設となる「国立京都伝統芸能文化センター(仮称)」の実現を目指し、そのソフト事業を先行して試行するという新たな試みです。

企画については、専門家を中心とした検討委員会を設置し、企画提案および実施決定をしています。

今年度は、伝統芸能みくらべ公演に加え、月に一度古典芸能に触れる機会を提供する「月イチ☆古典芸能シリーズ」、また歌舞伎や文楽など伝統芸能の演目を取りあげ、わかりやすく解説する講座「伝統芸能ことはじめ」など多彩なプログラムを開催しています。

お問い合わせ

京都芸術センター KYOTO ART CENTER

TEL:075-213-1000 FAX:075-213-1004

URL: <http://www.kac.or.jp>

E-mail: info@kac.or.jp

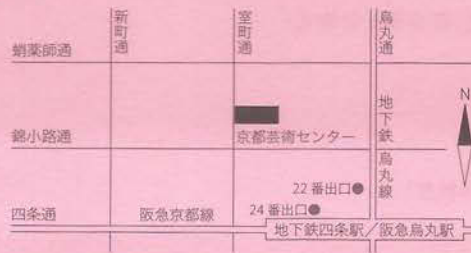
〒604-8156

京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2

地下鉄烏丸線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」


22番・24番出口より徒歩5分。

駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



主催:京都市、京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)

企画制作:京都芸術センター

助成:平成25年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業 

五感で感じる和の文化事業 検討委員

小林昌廣(情報科学芸術大学院大学教授)、富永茂樹(京都大学人文科学研究所教授)、志賀玲子(舞台芸術プロデューサー)、竹内有一(日本伝統音楽研究センター准教授)

西村彰朗(演劇評論家)、森西真弓(大阪樟蔭女子大学教授・雑誌『上方芸能』編集代表)、森川佳昭(京都市文化市民局 文化芸術都市推進室長)

舞台監督:大谷みどり(株式会社京都舞台美術製作所) 照明:高島靖和(株式会社リュウ) 音響:大久保歩(有限会社クワット) 宣伝美術:G_graphics